

# 2. 研究の経緯と組織

## 教員の子ども理解に課題

小学校高学年や中学校になってから、学習困難や問題行動として顕著になる子どもについて、「もっと早期に困り感に気づくことができているならば・・・」



- 平成19年度** 発達障がいテーマとした実践研究会立ち上げ
- ・各校で、小野次朗先生による事例研究をスタート
  - ・各校で、チェックシート等の活用による実態把握
- 平成24年度** 東小学校で、MIM指導スタート
- ・MIM指導についての研修会を市主催で実施
- 平成26年度** 文部科学省の事業を受け、研究を推進
- ・全小学校の1年生で、MIM指導スタート
  - ・通級指導教室未設置校における個別指導教室開始

## ★大阪狭山市内の全小学校

- MIM指導、チェックリストの実施
- 実施後の検証
- 校内委員会における児童の共通理解
- 通級指導・個別指導
- 支援教育に関する研修会の実施

### 各校担当者

- 通級指導担当
- 支援CO
- MIM主担
- 1年生担任

## ★事業運営委員会

- 小野次朗医師（委員長）
- 梅花大学伊丹教授
- 大阪府教委指導主事
- 発達障がいアドバイザー
- 巡回相談員
- 小学校校長    • 中学校担当教諭

共同研究・実践交流  
成果まとめ・情報発信

小中学校通級指導及び  
小学校個別指導担当者会

MIM主担者会

小中学校合同の研修会・中学校区単位の研究会

★大阪狭山市教育委員会





● ● 医師や学識経験者などを交えた  
事業運営委員会

# 3. 研究内容

## ● 研究テーマ

発達障がいのある子どもにも配慮した  
授業づくり・集団づくり

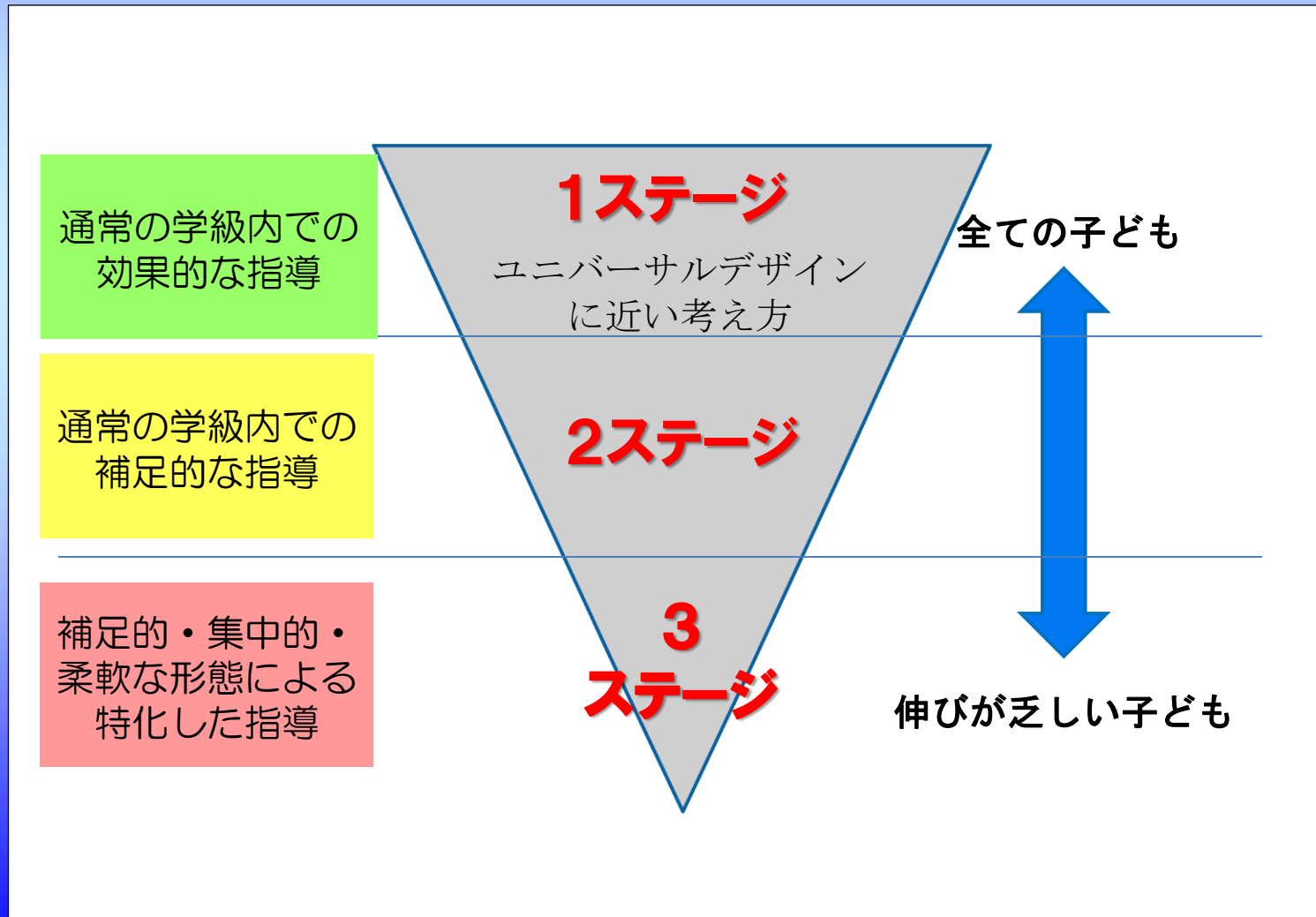
MIM指導の活用によるつまずきの早期発見と、  
どの子どもも理解しやすい指導方法の工夫



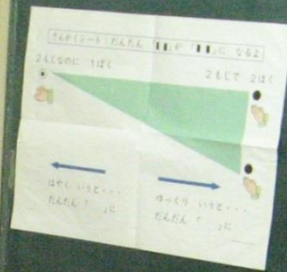
# ●● MIM (通常学級における多層指導モデル)

## Multi-layer Instruction Model

通常の学級において「読み」のつまずきを早期に発見し、子どものニーズに対応した指導・支援をしていこうとするモデル。特殊音節を含む読みのテスト(MIM-PM)で定期的にチェック





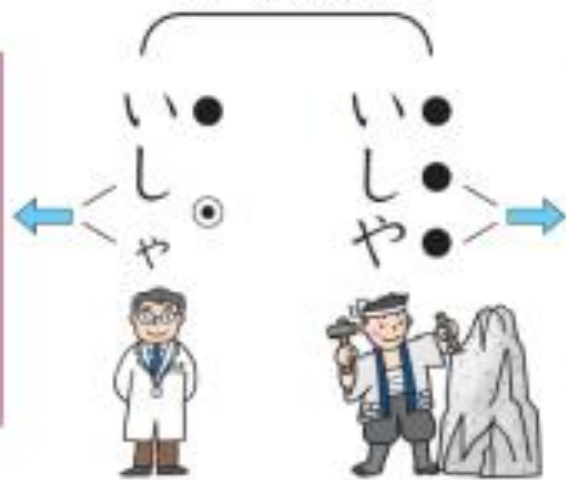


h<sub>2</sub> ● h<sub>2</sub> ●  
○ ●  
○ ●





どう ちがうかな？



2もじなのに  
1はく

2もじで  
2はく

あわさって  
ねじれる  
おど



M I M指導を、1年生全員に実施します



M I M-PMと文部科学省チェックリストで、つまずきを把握します



通級指導教室などで、課題を克服する指導をします



集中できる教室環境を整え、1時間の授業の流れを工夫します



どの子ども、わかる喜びが実感できます



自己肯定感が高まり、さらなる成長へとつながります



# ● 個別指導を全10校で展開

	通級指導教室	個別指導教室	通級教員派遣 (週2回)
東 小学校	●		
西 小学校		●	
南第一小学校	●		
南第二小学校	●		
南第三小学校		●	
北 小学校		●	
第七 小学校	●		
狭山 中学校	●		
南 中学校	●		
第三 中学校			●